

新北病院の基本構想・基本設計

はじめに

北病院は14年間の診療所時代を経て、1980年に52床の病棟を持つ病院として開設しました。1996年には隣地を購入しリニューアル工事を行い、病床を6人部屋から4人部屋に変更するなど療養環境の改善や耳鼻科や整形外科の新設などを行なってきました。

北病院の建て替えは、組合員・職員の長年の希望でもあり、施設自体の老朽化や今後予想される大地震に対する備え、病院施設基準の変更への対応も迫られており、必要となっています。

今回、現北病院から非常に近い位置で建設用地が確保できたことは幸運であり、「いつでも安心してかかれる良い医療」と「いざという時安心してかかれる医療機関」「地域の保健予防活動の拠点」という開設時からの願いに応えられるよう、2014年4月オープン予定で新病院の建設をすすめていきます。

新病院建設の背景と意義

●医療供給スペースの不足、療養環境の悪化の解消

病院の施設基準や人的体制基準の変更に伴い、求められる環境が満たせなくなっています。

また、入院患者の変化(要介護者の増加)に対し、病室が3階(40床)と4階(12床)に分離している、トイレの数が少ない、廊下等の幅が狭いなど、対応できなくなっています。さらに、外来スペースにおいても整形外科が2階にある、待合室が狭く車いすでの移動に支障をきたすなど、利用者に対し優しい環境となっておりません。

●躯体の老朽化への対応

第1期(1973年)、2期工事(1980年)部分は、新耐震基準(1980年)以前の建築物で、耐震改修促進法(2006年)により、耐震補強工事又は建て替えが必要となっています。

また、ボイラーや配管の老朽化による空調設備の不良、水漏れの頻発等、大掛かりな改修も必要となっています。

新病院の基本構想

- ・現病院から東へ80mほど移動した土地に(615坪)、新北病院を建設し全面移転を行ないます。建蔽率70%、容積率200%をフルに活用した施設とします。
- ・大規模災害に耐える構造とします。また、災害時でも医療事業継続できるような施設・設備とします(発電機能の複数化、地下水の利用等)。
- ・環境に配慮した施設にします(太陽光発電、雨水利用、緑化など検討)。
- ・高齢者や障がい者やさしい病院にします(二バーサルデザインの追及)。
- ・組合員、地域住民の方が憩えるような病院を目指します。また、職員も働きやすい病院とします。

- ・病床は一般病床52床を維持し、二つの階に集中すること個室を増やすことで入院患者の受け入れをしやすくします。また、快適に療養できる環境整備を迫ります。今後の医療改定にも対応できるような療養面積、廊下幅としていきます。認知症等介助の重要度が増す患者の受け入れができる部屋の配置、構造としていきます。
- ・高齢者人口の増加から来る、利用者の増加と要望の高まりに対応するために、リハビリテーションルーム、通所リハビリテーション(介護事業)ルームの拡大と機器の充実を図ります。
- ・医師、看護師を始めとした職員確保をすすめるための院内保育施設の設置を図ります。また、病児、病後児保育(室)の設置をすすめます。
- ・引き続き室料差額は徴収せず、安心して入院生活が送れるよう保障します。

医療構想

◎医療

- ・内科、小児科を中心とした急性期病院として、2次救急医療を引き続き担っていきます。
- ・地域一般病院としての役割を明確にし、今後迎える超高齢化社会を念頭に置き、介護・高齢者施設や開業医・在宅支援診療所との連携強化を図り、高齢者の急性増悪患者の受け入れをすすめていきます。一人暮らしの患者や認知症患者の入院受け入れもすすめていきます。

- ・訪問診療(往診)を行います。在宅支援病院、在宅支援病床等への対応も検討していきます。

- ・他の医療機関や介護事業所との連携を強化し、入退院を円滑にすすめるため地域連携室を設置します。

- ・北医療生協の医療介護のネットワークの要として、診療所や介護事業所との連携を強めていきます。

- ・今の医療事情に合つ、医療機器等の設置を検討していきます。

- ・医師確保をすすめる現診療科目の更なる充実と新たな診療科目の増設を検討していきます。

- ・食事は温冷配膳車を導入し適時適温給食を実現します。

◎健診、保健予防

- ・健診利用者の利便性を図るため、一般外来と健診の流れをなるべく別にできるような配置とします。

- ・組合員・地域住民からの要望が高い検診項目の検討、拡大を目指します(乳がん検診等)。

◎リハビリテーション

- ・リハビリテーション訓練室の充実を図る。100㎡以上を確保し、利用者のニーズに応えていきます。

- ・心臓血管リハビリの導入、言語聴覚療法室の設置を図ります。

- ・超高齢化社会を迎える中、今後介護保険の利用者が増大することが見込まれることから、通所リハビリテーション施設の拡大をすすめる、定員増を図ります(最大60人)。

基本設計

1階：正面玄関、外来(内科、耳鼻科、整形外科)、手術室、検査、放射線、地域連携室、組合員ルームを配置します。

2階：小児科外来、リハビリテーション訓練室、通所リハビリテーション、管理部門、厨房を配置します。また、職員確保をすすめる点で院内保育室を設置します。また、病児・病後児保育室を配置します。

3階：急性期病棟52床を配置します。個室は18床を予定。防音対応、亜急性性に対応できる配置とします。ベッド毎に採光が取れる配置、全室に手洗、トイレを設置します。

4階：交流広場、野外設備を配置します。